

Hitachi Koki

日立ハムスライサー

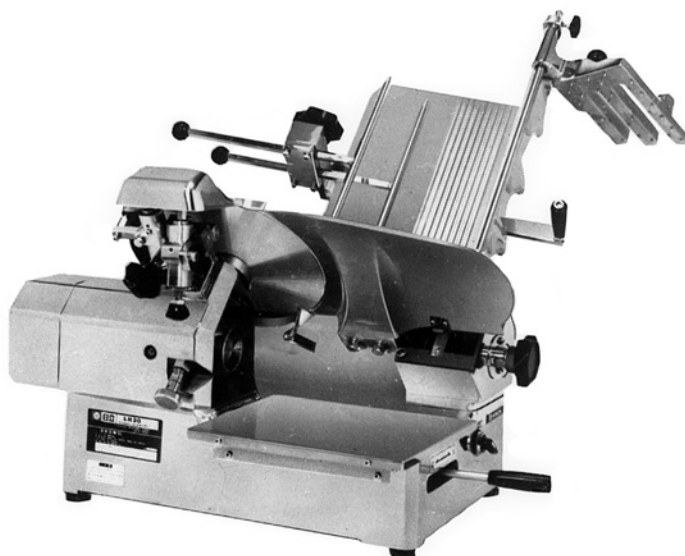
LH 30

取扱説明書

このたびは日立ハムスライサーをお買い上げいただき、ありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。







HITACHI

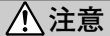
— 目 次 —


	ページ
安全上のご注意	2
ハムスライサー使用上のご注意	5
各部の名称	7
仕 様	8
付 属 品	8
用 途	8
作業前の準備	9
ご使用前に	12
操作の手順	14
丸刃の扱い	16
各部の調整	18
過負荷保護装置について	22
故障診断	23
掃除・点検	24
ご修理のときは	26


警告 ， 注意 ， 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「 警告」と「 注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。また、「 注」の意味も説明します。

 **警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 **注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

 **注** : 製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- 本取扱説明書をお読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警 告

- ① 作業場所は、いつもきれいに保ってください。
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 作業場の周囲状況も考慮してください。
 - 雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ 感電に注意してください。
 - 雨中では使用しないでください。
 - 必ずアース（接地）してください。
- ④ 子供を近づけないでください。
 - 作業員以外、機械やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - 乾燥した場所で、錠のかかる所に保管してください。
- ⑥ 無理して使用しないでください。
 - 安全に能率よく作業するために、機械の能力に合った速さで使用してください。
- ⑦ 指定用途以外には使用しないでください。
 - 本取扱説明書に指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ きちんとした服装で作業してください。
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれるおそれがあるので、着用しないでください。
 - 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

⚠ 警 告

- ⑨ コードを乱暴に扱わないでください。
- コードを持って機械を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑩ 防音保護具を着用してください。
- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ 無理な姿勢で作業をしないでください。
- 常に足もとをしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑫ 機械は、注意深く手入れをしてください。
- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。
 - 継ぎ（延長）コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑬ 次の場合は、機械のスイッチを切り、電源プラグを電源から抜いてください。
- 使用しない、または、修理する場合。
 - 刃物、トイシなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑭ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。
- 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑮ 不意な始動は避けてください。
- 電源プラグを電源に差し込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑯ 屋外使用に合った継ぎ（延長）コードを使用してください。
- 屋外で継ぎ（延長）コードを使用する場合には、キャブタイヤコードの継ぎ（延長）コードを使用してください。

⚠ 警 告

- ⑰ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。
- 機械を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
 - 疲れているときは、使用しないでください。
- ⑱ 損傷した部品がないか点検してください。
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての個所に異常がないか確認してください。
 - 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。
取扱説明書に指示されていない場合は、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。
スイッチが故障した場合は、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできない機械は、使用しないでください。
- ⑲ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
- この取扱説明書および弊社カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になるおそれがあるので、使用しないでください。
- ⑳ 機械の修理は、専門店に依頼してください。
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、必ずお買い上げの販売店にお申し付けください。
修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく事故やけがの原因になります。

ハムスライサー使用上のご注意

先に一般的な注意事項を述べましたが、ハムスライサーとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警 告

- ① **本機は、銘板に表示してある電圧で使用してください。**
表示を超える電圧で使用すると、モーターの焼損、破損、およびけがの原因になります。
(詳細は、12ページの「1.使用電源を確かめる」の項を参照してください。)
- ② **必ずアース(接地)してください。**
故障や漏電などのとき、感電のおそれがあります。
(詳細は、9ページの「2.アース(接地)、漏電しゃ断器の確認」の項を参照してください。)
- ③ **機械には絶対水をかけないでください。**
本機は防水構造ではありません。水をかけるとモーターおよびスイッチ類に水が侵入し、感電のおそれがあります。
- ④ **ハムノセ台が往復する範囲には必ず防護柵を設置してください。**
防護柵を設けないと、往復するハムノセ台が露出しているため、からだの一部に接触するなどけがのおそれがあります。
(9ページ「安全管理」の項を参照してください。)
- ⑤ **動く刃物や部品には絶対に触れないでください。**
運転中は絶対に丸刃、ハムノセ台など動く部品には手などからだを近づけないでください。けがの原因になります。
- ⑥ **運転中、本機の調子が悪かったり、異常音が出たときは、直ちに本機のスイッチを切り運転を中止し、お買い上げの販売店に点検・修理を依頼してください。**
そのまま運転していると、けがの原因になります。
- ⑦ **丸刃とゲージプレートのすきまは、丸刃の研磨のつど確認してください。**
すきまが大きいと指などが入りけがの原因になります。
(17ページ「各部の調整」の項を参照してください。)
- ⑧ **丸刃の研磨作業時は、保護メガネを使用してください。また、防じんマスクを併用してください。**
研磨作業時の粉じんが目や口に入るおそれがあります。

⚠ 警 告

- ⑨ 三相品で継ぎ(延長)コードを使用するときは、アース(接地)線を備えた4心キャブタイヤコードを使用してください。

アース(接地)線のない3心コードですと、感電の原因になります。

単相品で継ぎ(延長)コードを使用するときは、2心キャブタイヤコードを使用してください。

⚠ 注 意

- ① 付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。

確実にしないと、はずれたりしてけがの原因になります。

- ② 摺動部、回転部には常に注油してください。

使用前には必ず、丸レール部の注油カップ、摺動部、回転部に注油してください。注油を忘れますと、スムーズな回転、往復が得られなくなり、故障の原因となります。

潤滑油は食品機械用油をご使用ください。(例：日本石油ハイホワイト70)

ギヤボックスのギヤオイルについては、26ページ「ギヤオイルの補給および点検」の項を参照してください。

- ③ 骨付き肉は切らないでください。

骨付き肉を切ると丸刃が欠けるもとになります。

- ④ 単相品では冷凍肉を切らないでください。

冷凍肉を切るとモーターに異常な力がかかり、モーターが焼損および破損することがあります。

- ⑤ 三相品では固い冷凍肉を切らないでください。

固い冷凍肉(零下8℃より低いもの)を切るとモーターに異常な力がかかり、モーターが焼損および破損することがあります。

- ⑥ 過負荷保護装置が作動したときは、原因を取り除いてから運転を再開してください。

原因を取り除かないと、くり返し過負荷保護装置が作動します。

(22ページ「過負荷保護装置について」の項を参照してください。)

各部の名称

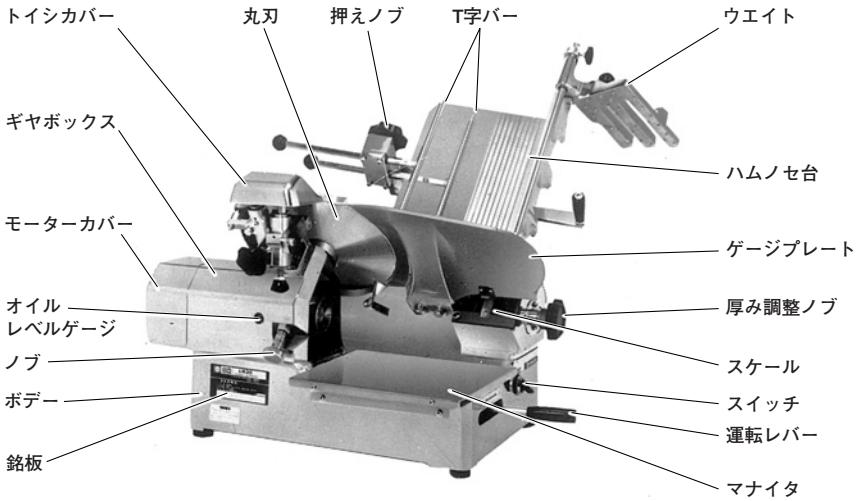


図 1-イ

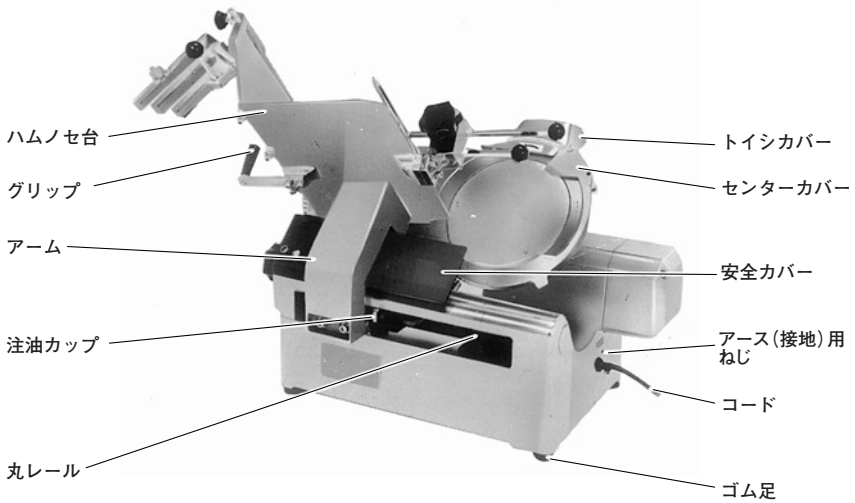


図 1-ロ

仕 様

		単相品	三相品
使用電源		単相交流 50/60Hz共用 100V	三相交流 50/60Hz共用 200V
モーター 種類		コンデンサ始動コンデンサ運転 単相誘導モーター 400W 4P	三相誘導モーター 750W 4P
	定格電流	6.1A(50Hz), 6.6A(60Hz)	3.5A(50Hz), 3.4A(60Hz)
ハムノセ台往復速度		38min ⁻¹ {38回/分}(50Hz), 46min ⁻¹ {46回/分}(60Hz)	
丸刃無負荷回転数		200min ⁻¹ {200回/分}(50Hz), 240min ⁻¹ {240回/分}(60Hz)	
スライス厚さ		0 ~ 20mm	
丸刃外径		300mm	
機体寸法		幅595×奥行832×高さ750(mm)	
ハムノセ台寸法(内側)		幅255×長さ395×高さ110(mm)	
最大積載 寸法	丸物	直径200×長さ460(mm)	
	角物	幅200×高さ150×長さ460(mm)	
	ベーコン	幅250×高さ50×長さ460(mm)	
質量		72kg	74kg
コード		2心キャブタイヤコード 3.5m	4心キャブタイヤコード 3.5m

付 属 品

● 単相品

アース(接地)線(緑色)(1本)

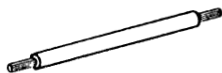


図 2

● 三相品

プラグ(4極20A)(1個)

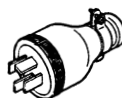


図 3

用 途

○ 各種肉類のスライス作業

作業前の準備

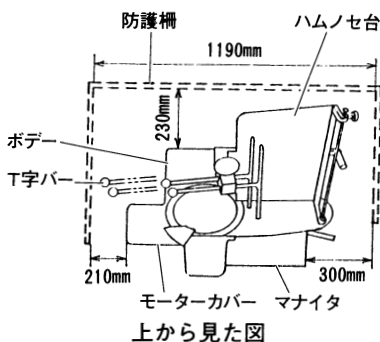
ご使用になる前に次の準備をすませてください。

1. すえ付け ……

- (1) 本機は傾斜のない平らで頑丈な台の上に置いてください。
- (2) 安全管理

⚠ 警告

- ハムノセ台が往復する範囲には防護柵を設置してください。



上から見た図

図 4

防護柵の設置寸法は、図 4 を参照してください。
すえ付け場所の広さを確認するときの目安にしてください。

2. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認 ……

⚠ 警告

- アース（接地）線をガス管に取付けると爆発のおそれがありますので、絶対にしないでください。

ご使用にさきだち、本機が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置（以下漏電しゃ断器と言います。）が設置されていることを確認してください。

また、本機は必ずアース（接地）をしてください。定格感度電流 15mA 以下、動作時間 0.1秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器が設置されている電源でお使いになる場合でも、より安全のためにアース（接地）されるようおすすめします。

地中にアース極（アース棒、アース板）を埋めアース（接地）線を接続するなどのアース工事は電気工事士の資格が必要です。お近くの電気工事店にご相談ください。

漏電しゃ断器やアース（接地）については、つぎの法規がありますので、参照してください。

労働安全衛生規則（第333条 漏電による感電の防止、第334条 適用除外）

電気設備の技術基準（第19条 接地工事の種類、第29条 機械器具の鉄台および外箱の接地、第40条 地絡しゃ断装置などの施設）

(1) 単相品の場合

(イ) ボデーに取付けてあるアース（接地）用ねじ（図1-ロ参照）に付属品のアース（接地）線（緑色）を接続してください。

(ロ) アース（接地）線（緑色）は念のために断線，接続不良がないことを確認してからご使用ください。

なお，テスターや絶縁抵抗計をお持ちでしたら，アース（接地）線（緑色）と本機金属枠との間の導通を確認してください。

(2) 三相品の場合

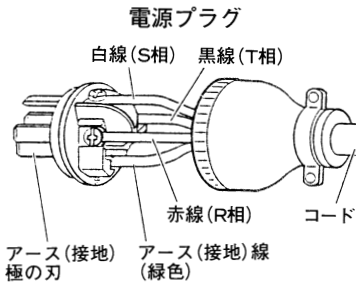


図 5

(イ) アース（接地）極の刃にコードの「アース」または、「E」と表示してある緑色の線を接続してください。

(ロ) 電源プラグを電源に差し込んだときに，赤線がR相，白線がS相，黒線がT相となるように電源プラグに接続してください。

(ハ) アース（接地）極の刃，アース（接地）線（緑色）は念のために断線，接続不良がないことを確認してからご使用ください。

なお，テスターや絶縁抵抗計をお持ちでしたら，アース（接地）極の刃と本機金属枠との間の導通を確認してください。

3. 継ぎ（延長）コード ……………

⚠ 警 告

- 継ぎ（延長）コードは，損傷のないものを使用してください。

電源の位置がはなれていて継ぎ（延長）コードが必要なときは，製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため，電流を流すのに十分な太さのものをできるだけ短くしてご使用ください。

心線断面積	最大長さ
1.25mm ²	15m
2mm ²	25m

●単相品の場合

本機に継ぐことのできるコードの太さ（心線断面積）とその最大長さを左表に示します。

継ぎ（延長）コードは2心キャブタイヤコードをお使いください。

●三相品の場合

本機に継ぐことのできるコードの太さ（心線断面積）とその長さは，左表の2倍が限度です。

継ぎ（延長）コードは必ずアース（接地）できるアース（接地）用の1心をもつ4心キャブタイヤコードをお使いください。

4. すえ付け後の掃除 ………

本機は掃除をして出荷いたしておりますが、輸送時にほこり、ごみなどでよごれることがあります。すえ付けをしたら機械の掃除をしてください。

掃除のしかたについては、24ページ「掃除・点検」の項を参照してください。

○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。

ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になる必要があります。

状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

⚠ 警 告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～7項は、電源プラグを電源に差し込む前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる ……………

必ず銘板に表示してある電圧でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターが破損するおそれがあります。また、直流電源、エンジン発電機、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。製品が故障するだけでなく、事故の原因になります。

2. スイッチが切れていることを確かめる ……………

スイッチ（図7参照）が「入」側になっているのを知らずに、電源プラグを電源に差し込むと不意に起動し思わぬ事故の原因になります。

3. 各部とねじ類の締付けを確かめる ……………

機械各部の名称と本体を照合し、取付け部品を確認し、念のため各部のねじ類の締付けを確認してください。

4. 保護カバーを確かめる ……………

保護カバーは災害防止のためのものです。各カバーは所定の位置へ確実に取付けてください。（図1-イ，ロ参照）

5. 丸刃とハムノセ台とのすきまを確かめる ……………

丸刃の刃先と、ハムノセ台とのすきまは2～3mm程度であることを確認してください。すきまがないと丸刃を破損します。

調整方法については、18ページの「丸刃とハムノセ台とのすきま調整」の項を参照してください。

6. トイシを確かめる ……………

トイシ（2個）は軽くまわるかどうか確認してください。また、亀裂や割れがないか十分お調べください。16ページの図10-イ，ロを参照してください。

7. 機体を点検する ……………

ボデー上部、ハムノセ台内部に工具類、ほう丁、やすり、ふきんなどを置いてないか点検してください。

置き忘れますと回転部分や往復動部分に当り、機体の破損や思わぬ事故のもとになりますのでご注意ください。

8. コンセントを確かめる ……………

電源プラグを差し込んだとき、ガタガタだったり、すぐ抜けるようでしたら、修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

9. 回転方向を確かめる（三相品の場合）……………

注・逆回転を続けると、ボデー内部のクラッチ板部がゆるみ破損するおそれがあります。直ちにスイッチを切ってください。

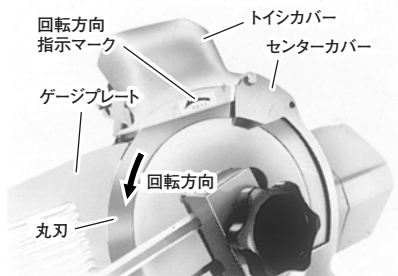


図 6

丸刃は、図6の矢印方向に回転するのが正常です。逆回転する場合は、スイッチを切り電源プラグを抜いて、コード（図5参照）の赤線（R相）と黒線（T相）をつなぎ替えてください。

丸刃の運転方法は、14ページ「操作の手順」の項を参照してください。

10. 各部の動作を確かめる ……………

2～3回程度、空運転を行い丸刃、ハムノセ台（図1ーイ参照）が円滑に動作するかどうか確認してください。

11. 丸刃を確かめる ……………

ご使用前には必ず丸刃を研磨して良い切れ味で使用するようになしてください。

16ページ「丸刃の研磨」の項を参照してください。

12. 注油する ……………

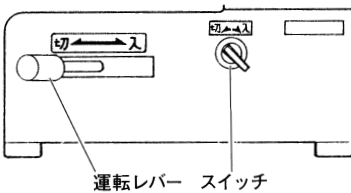
摺動部、回転部には常に注油をしてください。丸レールの注油カップ（図1ーロ参照）、ハムノセ台の摺動部にはご使用前に必ず注油してください。

操作の手順

⚠ 警告

- 作業終了後は必ずスイッチを切り、元電源も切ってください。
- スイッチを「入」にする前に、運転レバーが「切」になっていることを確認してください。運転レバーが「入」の位置でスイッチを「入」にすると、同時にハムノセ台が動き出ししけがの原因になります。

1. スイッチ ……………



運転レバー スイッチ

図 7

スイッチを「入」の位置にすると丸刃が回転し、「切」の位置に戻すと丸刃は惰性で少しまわってから停止します。

運転中何か異常が発生した場合は、直ちにスイッチを「切」の位置に戻してください。

2. 運転レバー ……………

スイッチを「入」の位置にして運転レバー（図7）を「入」の位置にすると、ハムノセ台が往復します。運転レバーを「切」の位置にすると、ハムノセ台が停止します。

3. ハムノセ台に肉を入れる ……………

- 注** • T字バーで肉をおさえる場合は、肉が自重でゲージプレート側に動く程度におさえてください。
おさえすぎると肉がゲージプレート側にスムーズに動かなくなり厚みむらの原因となります。

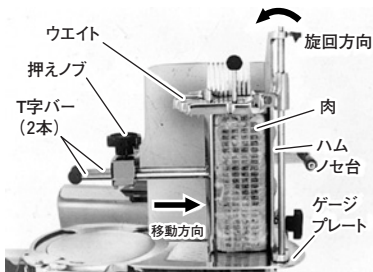


図 8

ハムノセ台に肉を入れ、以下の手順で肉とT字バーとのすきまを調整します。

- (1) T字バー（2本）を矢印方向に移動させ、肉とのすきまを2～3mm程度に調整し、押えノブを締付けます。
- (2) ウエイトをハムノセ台の内側（矢印方向）に旋回させ、肉がゲージプレートと反対方向に浮き上がらないよう肉の後から押付けます。

4. 肉の厚さ調整 ……………

⚠ 注意

- 単相品では冷凍肉を切らないでください。
- 三相品では固い冷凍肉（零下8℃より低いもの）を切らないでください。
冷凍肉を切るとモーターに異常な力がかかり、モーターが焼損および破損することがあります。

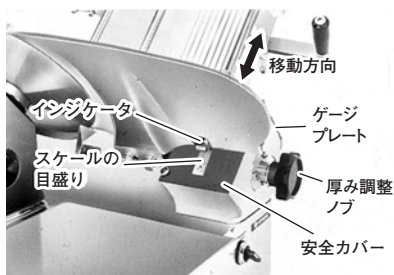


図 9

厚み調整ノブをまわすとゲージプレートが矢印方向に移動します。ゲージプレートに取付けてあるインジケータの先端をスケールの目盛りに合わせます。スケールの目盛りは、スライスする肉の厚さを示します。

● 冷凍肉をスライスする場合（三相品）

- 注** ● 肉の温度が零下8℃より低い場合、解凍してからスライスしてください。そのままスライスすると、クランク部に無理が生じ故障の原因になります。

冷凍肉の温度とスライス厚さとの関係は、左表を目安にしてください。

冷凍肉の温度	スライス厚さ
零下8℃	最大4mmまで
零下4℃	最大10mmまで

丸刃の扱い

△ 警告

- トイシを丸刃にセットする際は、必ず運転レバーを「切」の位置にし、スイッチを切ってください。不意に丸刃やハムノセ台が動くおそれがあります。
- ロックノブは、強く締付けてください。ロックノブがゆるんでいると、トイシと丸刃が接触し破損するおそれがあります。

注 ● トイシは、丸刃を研磨したときの位置（図10-ロ）にしておきますと、肉くずや脂肪が付着し、目づまりをおこします。研磨後は必ずトイシをもとの位置にもどしてください。

1. 丸刃の研磨 ……………

スライサーの生命は丸刃の切れ味にありますので、常に良い切れ味を保ち清潔にしておくなど手入れしてください。

(1) トイシカバーを矢印方向に旋回させます。（図10-イ）

ロックノブをゆるめ、トイシを矢印方向に旋回させ、ロックノブを締付けて固定します。（図10-ロ）

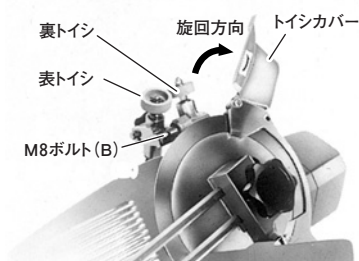


図10-イ

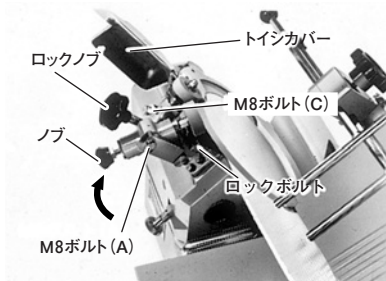


図10-ロ

(2) 表トイシの出入りは、ノブをまわして行います。裏トイシの出入りは、ノブを引張って行います。（図10-イ、ロ）それぞれのノブを操作し、トイシを丸刃に接触させて、トイシの角度が（図19、図20参照）のようになっているか確認します。

（トイシの角度調整は、20ページ「トイシの角度調整」の項を参照してください。）

トイシ角度を確認した後は、必ず丸刃からトイシを離してください。

(3) 運転レバーが「切」の位置になっていることを確認し、スイッチを「入」の位置にして丸刃を回転させます。

(4) 最初に表トイシで刃先の表側を裏にカエリができるまで研磨し、表トイシを丸刃に接触させたまま、裏トイシで刃先の裏側のカエリを取る程度に軽く丸刃に接触させ研磨します。

次に、もう一度表トイシを丸刃に接触させ、刃先の裏側にわずかなカエリができる程度に軽く丸刃を研磨します。

刃先は(図11)のように研磨します。(図12)のように研磨すると厚みむらの原因となります。

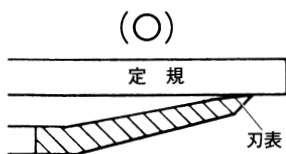


図 11

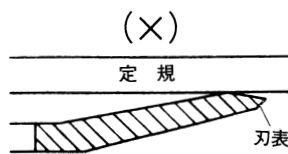


図 12

(5) 研磨終了後、スイッチを「切」の位置に戻し丸刃が停止してから、表トイシのノブをまわして丸刃の刃先から離します。

ロックノブをゆるめ、トイシを後方へ倒してもとの位置(図10-イ)にもどしてください。

(6) トイシカバーをもとの位置にもどしてください。

(7) 最後に、研磨作業時の粉じんが丸刃まわりの部品に付着していますので、必ず掃除してください。

2. 丸刃の掃除 ………

丸刃に肉くずがつきますと、切れ味が低下しますので、いつもきれいに掃除してください。丸刃の掃除については、25ページ「丸刃」の項を参照してください。

各部の調整

⚠ 警告

- 調整の際は必ずスイッチを切り、元電源も切ってください。

⚠ 注意

- 丸刃の研磨で外径が小さくなり、丸刃の刃先とゲージプレートのすきま（図15参照）が4mm程度になったときや、丸刃を新品に交換したときは、必ず下記の1～4項の調整をしてください。すきまが大きいと指などが入りけがの原因になります。

1. 丸刃とハムノセ台とのすきま調整 ……………

⚠ 注意

- ハムノセ台の出入りを調整した後は必ずロックナットを締付けてください。締め忘れますと、運転中ハムノセ台が動いて丸刃に当たり、丸刃を破損する原因になります。なお、締付け後もう一度すきまを確認してください。（締付けたとき多少すきまが変わる場合があります。）

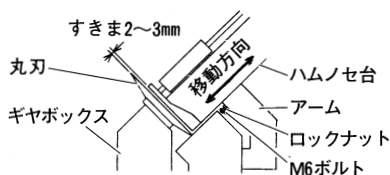


図13

丸刃の刃先とハムノセ台とのすきまは（図13）のように2～3mm程度になるように調整してください。ハムノセ台はロックナットをゆるめ、M6ボルトをまわせば移動できます。

2. ハムノセ台の調整 ……………

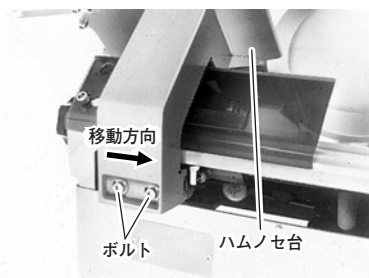


図14

ボルトをゆるめて、丸刃が小さくなった分、ハムノセ台を奥方向（矢印方向）へ移動し、ボルトを締付けてください。

3. ゲージプレートの調整 ……………

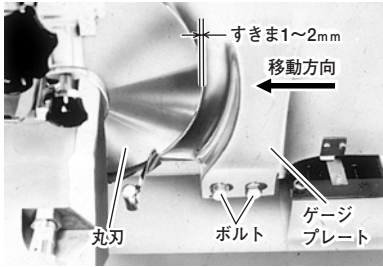


図 15

丸刃の刃先とゲージプレートとのすきまを1～2mm程度に調整してください。

ゲージプレートはボルトをゆるめ、矢印方向に移動しボルトを締付けてください。

4. センターカバーの調整 ……………

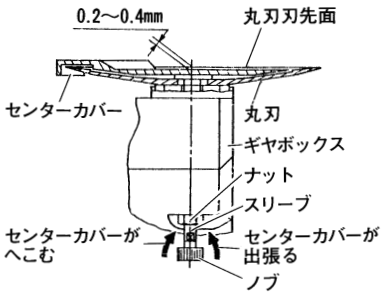


図 16

センターカバーは丸刃刃先面より0.2～0.4mmへこむよう調整してください。

センターカバーはノブをゆるめ、ナットをゆるめて、スリーブをまわせば出入りします。

スリーブは右へまわすとセンターカバーが丸刃刃先面より出張る方向に移動し、左へまわすとセンターカバーが丸刃刃先面よりへこむ方向に移動します。

5. 丸刃の交換 ……………

△ 注意

- 丸刃の外径寸法が280mm程度になりましたら、丸刃を新品と交換してください。交換しないと、丸刃とゲージプレートとのすきまが大きくなりけがの原因となります。
- 丸刃を交換する場合、丸刃の扱いには十分注意してください。丸刃の刃先には絶対触れないよう注意してください。

(1) 丸刃の取はずし方

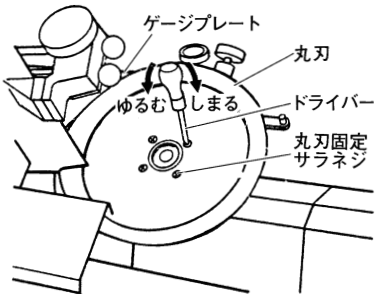


図 17

- ① センターカバーをはずします。
(24ページ「センターカバー」の項参照)
- ② ゲージプレートを移動させます。
(15ページ「肉の厚さ調整」の項参照)
- ③ ドライバーで丸刃固定サラネジ(4個)をゆるめ抜きとります。
- ④ 両手で丸刃を持ち取りはずします。

(2) 丸刃の取付け方

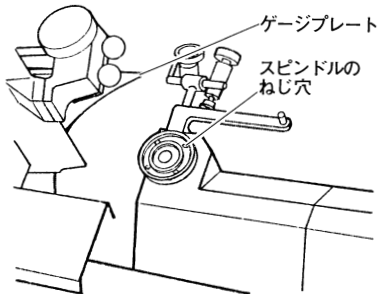


図 18

- ① スピンドルのねじ穴(4個)と新品の丸刃(刃付けていない)の穴(4個)を合わせ両手ではめ込みます。
- ② ドライバーで丸刃固定サラネジ(4個)を強く締付けます。
- ③ 18ページ「各部の調整」の項に従い各部を調整し、センターカバーを取付けます。
- ④ 最後に16ページ「丸刃の研磨」の項を参照し、丸刃を研磨して終了です。

6. トイシの角度調整 ……………

丸刃の刃先とトイシが接触する時の位置関係は(図19)(図20)のようになっています。

(丸刃の裏面から見た図)

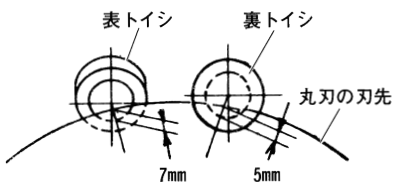


図 19

(上から見た図)



図 20

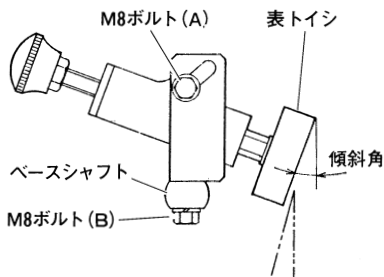


図 21

(1) 表トイシは側面のM8ボルト(A)(図21)をゆるめると単独で高さで傾斜角を変えることができます。

(2) 丸刃を上から見た図(図20参照)のトイシの角度は、ベースシャフト下部のM8ボルト(B)(図21)をゆるめると表トイシが調整でき、M8ボルト(C)(図10-ロ参照)をゆるめると裏トイシが調整できます。

(3) 表および裏トイシは、(図20参照)のように丸刃の刃先に片側のみ当ててください。裏トイシはなるべく丸刃の刃先に平行に当てるようにしますが、若干片側のみ当てるようにしたほうが良い調整のしかたです。

(4) 丸刃が小さくなったときは、ロックボルト(図10-ロ参照)をゆるめトイシ全体を下げトイシの位置、角度を調整してください。

過負荷保護装置について

⚠ 警 告

- 過負荷保護装置が作動したときは、必ずスイッチを切り、元電源も切ってください。次に原因を取り除きSWカバーを開けて復帰スイッチを押してください。スイッチを切らないと不意に動きだし、けがの原因になります。

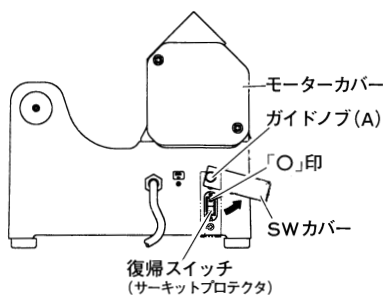


図 22

固い冷凍肉（零下8℃より低いもの）や、異物が丸刃に食い込んでモーターの温度が異常に上昇すると、内蔵されている過負荷保護装置が働きモーターが停止します。

復帰スイッチは、ガイドノブ(A)をゆるめSWカバーを矢印方向にまわすと見えますので、「○」印が表示された側を押してください。

この復帰スイッチで、運転の「入」、「切」操作は絶対にしないでください。

また、復帰スイッチを頻繁に使用しますと、故障の原因になります。

モーターの過負荷保護装置が働く原因と対策

原 因	対 策
1. 固い冷凍肉を切断した。	「肉の厚さ調節」の項を参照。
2. 丸刃の切れ味低下。	「丸刃の研磨」の項を参照。
3. 異常に固いものを切断した。	指定用途以外の物を切断しない。
4. モーターの故障。	販売店に修理依頼する。
5. 丸レール摺動部の油切れ。	丸レール部の注油カップに注油する。

原因不明の場合は、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。

故 障 診 断

状 態	原 因	対 策
丸刃、ハムノセ台が動作しない。	機械に異常がある。	販売店に修理を依頼する。
厚みむらがでる。	①センターカバーと丸刃の段差寸法が不適正。	「センターカバー調整」の項を参照。
	②丸刃の切れ味低下。	「丸刃の研磨」の項を参照。
	③ゲージプレートと丸刃の平行度が不適正。	販売店に修理を依頼する。
	④肉がハムノセ台内で動いている。または肉が下がってこない。	「ハムノセ台に肉を入れる」の項を参照。
	⑤丸刃とハムノセ台のすきまが大きい。	「丸刃とハムノセ台のすきま調整」の項を参照。
スライス面が粗い。	丸刃の切れ味低下。	「丸刃の研磨」の項を参照。
冷凍肉が切れない。	①肉の温度が低すぎる。またはスライスした肉片が厚すぎる。	「肉の厚さ調整」の項を参照。
	②丸刃の切れ味低下。	「丸刃の研磨」の項を参照。
	③運転レバーの操作が不適正。	運転レバーを「入」の方へ強く動かす。
切り残しがでる。	①丸刃の外径が小さくなった。	「ハムノセ台の調整」の項を参照。
		「丸刃の交換」の項を参照。
	②丸刃とハムノセ台のすきまが大きい。	「丸刃とハムノセ台のすきま調整」の項を参照。
③丸刃の切れ味低下。	「丸刃の研磨」の項を参照。	
トイシの回転が悪い。	トイシの取付け角度が悪い。	「トイシの角度調整」の項を参照。

注 • 正常に作動しなくなった場合には、決してご自分で修理をなさらないで買い上げの販売店にご用命ください。

掃除・点検

⚠ 警告

- 掃除、点検の際は必ずスイッチを切り、元電源も切ってください。
- 機械には絶対水をかけないでください。水がかかると感電のおそれがあります。

ハムスライサーは、食品を扱う機械ですので衛生には十分気をつけ、必ず掃除を行い清潔にしておいてください。

掃除後は、各部品を所定の位置に確実に取付け、しっかりと締付けてください。

1. センターカバー ………

⚠ 警告

- センターカバーを取りはずすと丸刃が露出しますので、絶対丸刃の刃先には触れないようにしてください。けがの原因になります。

安全カバーを取りはずしてください。(取りはずし方法については、25ページ「安全カバー」の項を参照してください。)

ノブをゆるめて取りはずした後、センターカバーを両手で持ち上げはずすことができます。(図23-イ、ロ)

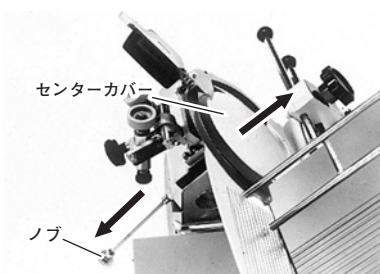


図23-イ



図23-ロ

2. 安全カバー ………

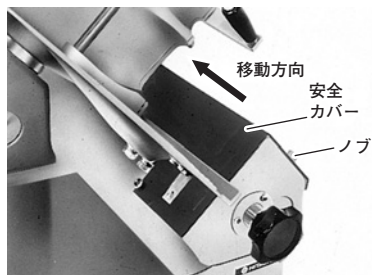


図 24

ノブをゆるめて安全カバーを矢印方向に移動させると取りはずすことができます。

- 注** • 安全カバーには熱湯をかけないでください。安全カバーが変形するおそれがあります。

3. 丸 刃 ………

⚠ 警 告

- 丸刃の刃先には、絶対触れないよう注意してください。けがの原因になります。

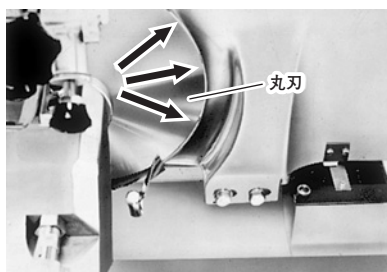


図 25

丸刃の掃除は、丸刃の中心から外側方向（矢印方向）に向けてふいてください。

ふきとりは、柔らかい布などを使用してください。

4. 各部のねじ ………

各部の部品のうち、ゆるんでいる所がないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいる所がありましたら締め直してください。

ゆるんだままお使いになると危険です。

5. 注 油 ………

本機を長持ちさせるため、摺動部、回転部には定期的に食品機械用油を注油してください。また作業する前には、丸レールの注油カップ（図1-10参照）、ハムノセ台の摺動部に必ず注油してください。

6. ギヤオイルの補給および点検 ………

- 注**
- ギヤオイルを入れすぎますとモーターに無理な力がかかり、モーター部、ギヤボックス部が高温になり故障の原因になります。
 - ギヤオイルの補給の際、水、肉汁などをギヤボックス内に入れないよう十分注意してください。
 - ギヤオイルを交換する時には、ギヤボックス内部を洗油で洗浄してください。ギヤボックスの寿命を伸ばし、高精度を維持します。

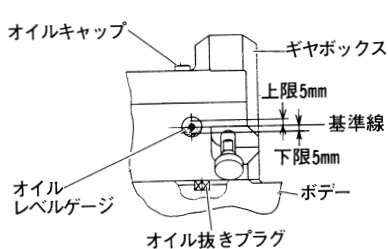


図 26

(1) ギヤボックス (図26) のギヤオイルをオイルレベルゲージにより点検し、不足している場合は補給してください。

(2) ギヤオイルを半年に1回ぐらい、次の要領で交換してください。

① ポデー内側のオイル抜きプラグを取りはずし、古いギヤオイルを抜きます。

② オイル抜きプラグを取付け、オイルキャップを取りはずし、新しいギヤオイルを入れます。

③ ギヤオイルの量は、オイルレベルゲージ基準線より、下限・上限5mm以内になるのが適量です。(図26)

補給および交換するギヤオイルは、出光興産製ダフニースーパーギヤオイル#460 (I S O V G 460) をご使用ください。

ギヤオイルは最寄りのガソリンスタンドなどでお求めください。

ご修理のときは

本機は、厳密な精度で製造されています。したがって、もし正常に作動しなくなったような場合には、決してご自分で修理をなさらないで買い上げの販売店にご用命ください。

その他、部品ご入用の場合や取扱い上で困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

※ (外観などの一部を変更している場合があります。)

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(NO.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年 月 日	製造番号(NO.)
販売店 (TEL)		

製造元  日立工機株式会社

代理店
